

# 近江と若狭を結ぶ 栗柄峠

マキノ高原マキノスキー場から赤坂山山頂脇を抜けて、福井県的美浜町新庄へ向かう山越えの道は、栗柄峠と呼ばれ、古くから近江と若狭をつなぐ主要な峠道の一つとして利用されてきました。峠の名前は、福井県側の麓に「栗柄」という村があったことにより、現在その村は美浜町大字新庄の一部になり、「栗柄」の地名はなくなっています。

この道は古代の官道である北陸道の一部とも考えられており、『延喜式』に記される北陸道の駅である近江国の鞆結駅と若狭国の弥美駅を結ぶ最短コースであるとも考えられています。

近江と北陸を結ぶ街道としては、マキノ町海津から追坂峠を越えて、越前敦賀に向かう北国海道（現在の国道161号）が有名ですが、この道は中世以降、主に琵琶湖と日本海の間を往来する物資の運搬ルートとして整備された道であり、徒歩で日常的に行き来をする人々は、出発地と目的地をで

きるだけ最短で結び、かつできるだけ歩きやすい峠道を選んで通ることが多かったと思われる。

この栗柄峠も近隣の村人たちの生活の中での移動に使われることが多かったと考えられ、現在、マキノスキー場から赤坂山への登山ルートを登り始めると、途中からところどころに古い石畳が残り、かつては多くの人々が歩いた道であったことが分かります。また、峠付近には自然石に彫られた地藏菩薩像や岩をくりぬいて置かれた

石造仏が祀られ、峠越えの安全を願った人々の信仰心をうかがうこともできます。

水上勉の小説『湖の琴』には、福井県の栗柄村に住む主人公の少女が、三味線や琴の糸取り仕事のため、栗柄峠を越えて滋賀県にやってくる場面があり、その情景は「近江へぬける白い一本道の両側の山壁には、葉を落とした櫟の梢が針のように空へつき出ている肌寒い風が吹いていた。」と描写されています。

風雪の厳しいこの峠道は、冬は当然雪に覆われることもあり、交通路としての役割は早くに終えました。近年では、春から秋にかけては高山植物が美しい登山コースとして、また冬にはスノーシューなどで雪山登山が楽しめるコースとしても、多くの人に知られるようになっていきます。



▲栗柄峠付近の石仏

閩文化財課

☎(32)4467

### 編集者のつぶやき

▼表紙は、今津北小学校の伝統行事、左義長の様子です。代表の生徒が新年の誓いを述べた後に、着火。高さ約7メートルのやぐらが勢いよく燃え上がり、子どもらはかけ声とともに学業成就を願いました。▼私は初詣で家内安全を願いましたが、1月に県内でインフルエンザ注意報が発令され、早速心配に。手洗いやうがいなど健康管理につとめないといけませんね。節分には豆巻きをして無病息災を願いたいと思います。（広報担当S）



▲栗柄峠へ向かう道の石畳